

春の気候 (2021.5.22)

温帯低気圧が日本海を通過するため日本に暖かい風が吹き込み気温が上がり、そして春になる。春は偏西風の影響で温帯低気圧と移動性高気圧が交互に西からやってくる。したがって3～5日で天気が周期的に変化する。

生徒が作成したスライド(春の特徴)

活用場面

一斉学習
 教師による教材の提示

個別学習
 調査活動
 表現・制作

協働学習
 発表や話し合い

秋雨 (Bさん)

上: オホーツク海高気圧
 下: 北太平洋高気圧

帯: 秋雨前線

※秋雨が明ける
 →北太平洋高気圧が弱まる→
 前線が南下する

生徒が作成したスライド(秋雨の特徴)

活用した機器等

Chromebook
 プロジェクター

活用したアプリ等

Google Classroom
 Google スライド
 インターネット検索

学習のねらい

「冬～春～梅雨～夏」担当と「夏～秋雨～秋～冬」担当のペアの生徒どうして、スライドを使って説明したり議論したりすることを通して、日本の気候の原因となる日本列島の位置の特徴を見だし、日本の6つの季節の特徴を気象用語や図を使って表現できるようになる。

学習の流れ

導入 「冬～夏」担当と「夏～冬」担当に分かれて、日本の季節ごとの特徴や季節の変化についてワークシートをもとに学習する。
 「冬」「夏」の特徴的な天気図を気象庁 HP から探し、ペアで説明しあう。

展開 担当ごとに「冬～夏」「夏～冬」の特徴的な天気図を気象庁 HP から探し、その天気図に説明を加えたものをGoogleスライドにまとめる。
 作成したスライドをもとに、それぞれの特徴をペアで説明しあう。

まとめ 自ら調べたりペアの生徒の発表から得たりした情報を活用して、日本の気候の原因となる日本列島の位置の特徴を、気象用語や図を使ってワークシートにまとめる。
 最後に、自分が調べた季節とペアが調べた季節を比較して感じたことについて振り返る。

ココでICTを活用!

直接的な観察、実験では調べにくい、日本列島全体の季節の特徴を、気象庁のHPの情報を検索させることを通して、より体系的かつ具体的に理解できるようにした。
 気象庁から収集した天気図を切り貼りしながら、調べた内容とともにGoogleスライドに端的にまとめる活動や、そのスライドをもとに互いに発表しあう活動を通して、日本の気候の原因となる日本列島の位置の特徴を生徒たちが主体的に見いだすことができるようにした。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

1人1台端末の活用により、ペアで責任をもって範囲を分担させ、いわゆる「ジグソー法」的な手法を通して、より主体的に活動に取り組ませることができた。
 また、気象庁のデータから情報を収集するところから各自が経験することができ、深い学びにつながったようであった。気象という抽象的な概念の理解を促すには、天気図などをGoogleスライドにまとめ、発表する活動は非常に効果的であったと考えられる。